

令和5年度 研究全体構想図

【昨年度の成果】 ○国語科の学習の流れを共通して示すことで、学習活動がより明確になった。 ○机間指導の際に意図的な声掛けや形成的評価を実践したことで、主体的な学びや指導力向上につながった。 ○短冊、ホワイトボード等、表現方法を工夫することで、グループ交流が活発に行うことができた。	【八幡小学校：教育目標】 『心も体も強い子』 ○真剣に学習する子 ○みんなと仲良くする子 ○すすんでよいことをする子 ○体をきたえる子	【昨年度の課題】 ●国語の基本である「読みに始まり、読みに終わる」ということを確認し、読みの指導の際は「めあて・課題」をもたせる必要がある。 ●児童が考える際、必ず教科書の叙述を根拠に示せるよう指導していくことが必要である。 ●交流の時間やふり返りの時間を充実させることが必要である。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

研究主題
「主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成」
 ～国語科『書くこと』の指導を通して～

《目指す児童像》

《低学年》 想像したことや経験したことをもとにして、自分の思いや考えを書くことができる子。	《中学年》 相手や目的に応じて、自分の思いや考えを整理し、書き表すことができる子。	《高学年》 目的や意図に応じて書き方を工夫し、自分の考えを相手に伝えることができる子。
---------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	-------------------------------------------------------

《研究主題にせまるための手だて》

主体的学習を実現する

- 児童が目的意識をもって書くことができる題材を選ぶ。

学びを深める「交流活動」

- きたコンを活用した情報共有や話し合い。

個を生かす「学習評価」

- 個の学習状況に応じた即時評価の充実
- 学びの足跡に着目した形成的評価
- 児童同士の相互評価

児童の新たな気付き、思考の深まりを大切に学習過程

主体的・対話的で深い学びを実現する学習の流れ

児童の実態

- 自分の考えを書いたり、伝えたりすることに時間がかかるなど表現力が課題。
- 既習事項を次時の授業で活用する力が乏しい。
- 「きたコン」を活用する中で、個人の操作のスキルに差がある。
- 学びに対する興味・関心が低く、個人で粘り強く考える力が乏しい。

その他

- 並行読書
- 読書・音読の習慣化
- さくらんぼ（読み聞かせ）
- 異学年交流の充実

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> 児童が興味をもって聞くことができるように、言葉だけでなく、視覚的に訴える映像や写真を活用する。 自信をもって書く活動に取り組めるように、段落毎にまとまった枠のあるワークシートを使う。 話し方、聞き方の掲示物を活用したスピーチ活動を行い、体験の場を多くもち、抵抗感をなくしていく。 5W1Hの項目を提示し、児童が選んで質問できるようにする。質問の答えをメモに書くことで、大事な内容を落とさず聞き、書く活動へとつなげていく。 書いたものを読み合い、よいところを見つけたり、感想を伝え合ったりする時間を確保することで、相互評価できるようにする。 学習計画表や即時評価を生かし、児童の理解度を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が身近に感じて、継続して取り組むことができるテーマを設定する。また記事を紹介する場面を設けることで、相手意識をもって活動できるようにする。 写真や文章など児童が工夫する時間を十分確保する。 グループ同士の交流を行うことで、客観的なアドバイスを受け、新しい気付きや自信を得られるようにする。 下書きや割付を確かめる中で、文末表現の使い方を注意したり、目的に対する記事の内容が中心となっていたりするかなど、相互評価ができるふり返りの時間を確保し、互いに意欲を高めさせる。 学習計画表に沿って、自己評価することで本時の活動をふり返り、次時の指導に生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって身近であり、かつ調べてわかることを題材にし、また報告する機会を設定することで、目的意識をもって活動できるようにする。 他教科と総合的にを行い、児童が十分な情報を集めたり、図表に整理したりできるよう時間を確保する。 学習支援アプリを活用し、話し合いを円滑に進めたり、情報を共有したりする。 グループでの読み合いを繰り返し設定し、相手の書きぶりのよさに気づいて自分の記述に生かせるようにする。 毎時間自己評価をすることで、自分の成長を実感し、また次時への意欲へとつなげられるようにする。また、ふり返りに対して即時評価し、児童の理解度を確認し、次時の指導に生かしていく。

講師として明海大学客員教授 鈿持勉先生に1年間ご指導をいただきました。

実践① 5年『調べたことを正確に報告しよう』

- 第1次 調査テーマを決めて、調査をする（2週間）
- 第2次 調査結果をまとめる。
報告書の組み立てを考え、報告書を書く。
- 第3次 調査報告会を開く。



主体的学習を実現する

- 「八幡小をよりよくするために」という身近な題材にすることで、児童が意欲的に、また目的意識をもって活動できるようにした。
- 総合的な学習の時間と合科的に行い、調査や分析に十分な時間を確保した。



学びを深める「交流活動」

- きたコンを活用し、文章の組み立てや調査結果をまとめることで、話し合いや情報共有を円滑にした。
- グループでの読み合いをくり返し設定し、互いの良さを記述に生かせるようにした。



個を生かす「学習評価」

- 学習計画表で毎時間ふり返りをする中で、自分の成長を実感し、次時への意欲へつながるようにした。
- 即時評価をすることで、次時以降の指導に生かせるようにした。

実践② 4年『事実を分かりやすくほくしよう』

- 第1次 学習目標を確認し、テーマを決める。
- 第2次 新聞作りの手順や特徴を理解する。取材したことをもとに、新聞を作成する。
- 第3次 新聞を読み合う。3年生に紹介する。



主体的学習を実現する

- 「クラブをしようかいくする」に設定することで、児童が身近に感じ、継続して学習活動に取り組むことができるようにした。
- 3年生に伝わるような、文章や写真などの工夫する時間を確保した。



学びを深める「交流活動」

- 各クラブの内容が伝わるように、アンケートの項目や取材内容を話し合う時間をもった。
- 他のクラブとの意見交流をもとに、見出しや割付けの工夫、記事の修正や写真の選択など、内容の精選や文章構成に生かした。



個を生かす「学習評価」

- 学習計画表をもとに、毎時間自己評価をすることで、直ぐに教師からの指導を入れられることや、次時への意欲付けになった。
- 記事を互いに読み合い伝え合うことで、児童同士の意欲を高めた。